

平成27年秋の叙勲・褒章

第25回危険業務従事者叙勲



＝年齢は十一月三日現在。五十音順・敬称略＝

叙勲

瑞宝小綬章

- ▽坂本智(78) 福島工業高等専門学校名誉教授 郷ヶ丘

瑞宝双光章

- ▽白土長運(77) 元市助役 植田町

瑞宝単光章

- ▽齋藤修平(78) 元市消防団分団長 内郷綴町
- ▽鈴木孝則(76) 元各種統計調査員 平
- ▽矢吹政信(72) 元市消防団分団長 小名浜
- ▽吉田一榮(77) 元市消防団分団長 常磐湯本町

褒章

黄綬褒章

- ▽伊藤和男(79) 伊藤左官工業所代表者 植田町
- ▽江尻次郎(67) いわき信用組合理事長 常磐湯本町

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章

- ▽安藤信也(71) 元警視正 小島町
- ▽奥村昇(65) 元海上保安官 中央台

瑞宝単光章

- ▽小泉正彦(70) 元県警警視 四倉町駒込
- ▽祓川建夫(71) 元県警警部 平赤井
- ▽深田嶺雄(71) 元茨城県警 警部 植田町
- ▽茂木正志(65) 元海上保安官 内郷白水町
- ▽大垣宏(67) 元市消防司令 長 遠野町深山田
- ▽遠藤武四郎(67) 元市消防司令 小名浜島



進んでいます いわきの復興 19

写真で見る 震災復興土地区画整理事業の進ちょく状況 (久之浜地区)

市は津波被災地である、久之浜、薄磯、豊間、小浜、岩間の5地区において、同事業を実施しており、現在は宅地造成や道路・水路等の公共施設、さらにはライフラインなどの整備を進めています。

今月号では、久之浜地区における同事業の進ちょく状況を、写真でお知らせします。



久之浜地区の復興イメージ図



久之浜市街地工区では宅地造成が完了し、宅地擁壁や道路・水路等の公共施設、ライフラインなどの整備が進む(宅地引き渡し時期：来年3月ごろ～H29年10月ごろ)【本年11月撮影】

大臣表彰

＝年齢は11月10日現在。50音順・敬称略＝

法務大臣表彰

- ▷志賀英信(74) 人権擁護委員 四倉町
- ▷吉田智昭(70) 人権擁護委員 平

文部科学大臣表彰

- ▷中山元二(85) 学校医 中之作

厚生労働大臣表彰 (現代の名工)

- ▷宇佐見進(64) 建築板金工 平下平窪

平成27年度 技能功労者・優良技能者表彰

＝年齢は11月1日現在。50音順・敬称略＝

技能功労者

- ▷秋山三男(73) 菓子製造小売業 内郷綴町
- ▷小宅武(66) 電工 東田町
- ▷鈴木瑞夫(62) 配管工 平赤井
- ▷高坂征四郎(72) 美容 内郷御厩町
- ▷永野賢(65) 畳製造工 中岡町
- ▷沼倉孝志(68) 製缶・溶接工 内郷宮町
- ▷吉田光造(68) 左官 泉玉露

優良技能者

- ▷猪狩泰典(50) 電工 平谷川瀬
- ▷加藤宏章(35) 建築大工 常磐湯本町
- ▷鈴木幸雄(54) 配管工 小浜町
- ▷渡部直人(45) 塗装工 内郷高坂町



決定 第38回吉野せい賞

＝50音順・敬称略＝

準賞

- ▷小説「すべて天使の都合によって」 永沼絵莉子(中央台)

奨励賞

- ▷小説「ともだち百人」 林恵(平)
- ▷小説「岩南森林鉄道」 養修吉(宮城県仙台市)

※今回、吉野せい賞(正賞)の該当作品はありませんでした。

第39回吉野せい賞作品募集ポスター

- ▷最優秀賞＝渡辺愛美(小名浜二中3年)
- ▷優秀賞＝大浦成美(中央台南中3年)
- ▷優秀賞＝鈴木瑠美香(江名中3年)
- ▷奨励賞＝岩塚美月(中央台南中3年)
- ▷奨励賞＝兼子真嘉(好間中3年)
- ▷奨励賞＝清野広恵(中央台南中3年)
- ▷奨励賞＝丹能萌絵(勿来一中2年)
- ▷奨励賞＝西山七海(玉川中2年)

※最優秀賞の作品は、平成28年度「第39回吉野せい賞」作品募集ポスターとして使用します。



最優秀賞に選ばれた渡辺さんの作品

こんにちは市長室から 9



市政の主人公は「いわき市民」

いわき市長 清水敏男

今年の暦も残りあとわずかとなり、師も走る「師走」となりました。

11月1日に「いわき市中学生議会」が、市制施行50周年のプレ事業として、市議会の主催で開催されました。生徒会長サミットのメンバーが数班に分かれ、市政の課題について話し合い、代表者が質問に立ちました。最初は緊張していたようですが、堂々とした質問の中には、本当の市議会議員と見間違えるよ

うな建設的なものもあり、中学生の政治に対する意識の高さを感じることができました。

また11月は、昨年度から実施している「移動市長室」を三和地区で、「市長と‘ふれあいトーク’」をNPO法人ザ・ピープル、湯本温泉湯の華会の皆さんと開催し、さまざまな課題について懇談させていただきました。

私は市長就任以来、自分自身が積極的に地域に出向き、市民の皆さんと触れ合う中から、生の声を直接お聴きすることに、特に意を用いてまいりました。

来年の参議院議員選挙からは、18歳以上が有権者となります。子どもたちや若者の声、そして多くの市民の声を、市政に数多く反映できるシステムをいかに構築していくか、いわき方式を創造していきたいと思ひます。